



白浜RC週報

District 2640 SHIRAHAMA Rotary Club Weekly Bulletin

第2139回 例会

9 月 3 日

平成 16 年 (2004 年)

創立: 1961 年 (昭和 36 年) 3 月 27 日

会 長 南 勝 弥
幹 事 室 明
会報委員長 片 田 和 雄

事務所/例会場: 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町2018 ホテル「グリーンヒル白浜」
TEL (0739) 42-2733 / TEL・FAX (0739) 43-5911 (直通)
例会日: 毎週「金曜日」(12:30~13:30)/事務員在室日: 月・木 (13:30~16:30) 金 (10:00~16:30)

本日のプログラム

足助重賢会員の卓話です

前週の例会報告 / 第2138回例会 (平成16年8月27日)

出席報告

会員数 18名 (出席免除会員1名)
名誉会員 1名
出席数 14名
出席率 82.35%
先々週の訂正出席率 100%

【ゲスト】 株式会社双見商会 副社長
田辺市観光協会 副会長 多田稔子様

【ピジター】 松生 満君 (忠岡)

【司会】 南 勝弥会長

【ソング】 「我等の生業」 橋本君

【本人誕生日】 8/31 三谷君

【週会報披露】 田辺はまゆうRC

【ニコニコ箱】

☆三谷先生の息子さんにお世話になりました…松生君(忠岡)
☆ゲストに多田様をお迎えして ……南会長、室幹事
岩橋君、片田君、北尾君、堅田君、久保木君
☆残暑お見舞申し上げます ……岡本君
☆もう夏も終わりですね ……湯川君
☆本人誕生日 ……三谷君

【変更通知】

和歌山南RC: 9/10 (金) 例会は19:00~
「ウェルサンピア和歌山」に変更
和歌山北RC: 9/13 (月) 例会は18:30~
「アバローム紀の国」に変更

近説遠来のまちづくり: 「まちづくり」は「まちのこし」

田辺市観光協会 副会長 多田稔子様



「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録について

私たちの住むこの紀伊半島は遠い昔から自然信仰を育んでおり、奈良の都のすぐ南に位置しているという事からも、神々が隠る特別な地域として紀伊山地が思われておりました。そこへ6世紀仏教が伝来し、7世紀後半には仏教が国家の宗教として地位を得ます。その頃には仏教の山岳信仰の場とな

っております。それから少し時代を経て9世紀、空海が真言密教を日本に持って来ます。これもまた高野山に定着し、山岳宗教道場として地位を確率して行きます。

更に、10世紀中頃から11世紀にかけては、そういうものに道教の神仙思想とか色々なものを取り入れた修験道が吉野大峯の方で確立され、中心地となっていきます。10世紀位にかけて仏教の影響が今度は段々と隆盛を持ってきますと、本来日本の国は神道だったはずなんですけれども、じゃ、その神道の神々は何処へ行ったのという事になって、今度は日本人特有の考え方で神々は仏教の諸尊が姿を変えて現われているんだと。神仏習合って言うんですけども、そのようにして位置付けていきます。

さらに更にですね、今回こちら辺が私も良く分からなかった所だったんですけど。10世紀から11世紀には仏法が衰えて末法の世になるという末法思想があるんですけども。その時には今度は浄土宗と、こう人々の宗教が変わっていく中で、那智の補陀洛山寺の補陀洛渡海。西の方に浄土があると言うんで、お坊さんが生きてままで船に乗って極楽往生というか即身成仏を目指す。そのような事までを含めた一連の宗教の形が、この紀伊半島の南の方に残っている。これが、遺産の価値だという事なんです。しかもそれが参詣道で繋がっている。この近隣では中辺路・大辺路。三重の方からは伊勢

次の例会は9月10日です / プログラムはクラブ協議会です

路。高野山からは小辺路・町石路。それから大峯の方には奥
駆路。それらが何処に集まっているかという本宮なんです。
全部、本宮が基点となって縦横無尽に各々の聖地と結ばれて
いる。これが、今なお1200年の時を超えて残っているという
のが今回の世界遺産の価値だと言われています。よって宗教
とか信仰とかというものと密接に拘わっているという事です。
ですからこれは自然遺産ではなくて文化遺産。世界遺産には
自然遺産、文化遺産、複合遺産の3つがあります。その中の
文化遺産と位置付けられました。

今言ったような霊場が3つと参詣道が3つ。特徴的な事は、
とにかくエリアが広い。コアゾーン、バッファゾーンとある
のですが、コアになる部分が495ヘクタール。その周辺の景観
の保護を図るために制約を受けたりするバッファゾーンと呼
ばれる所が11,370ヘクタール。関係する市町村も非常に多くて
3県にわたり29市町村。道を含む世界遺産はスペインの「サン
チャゴへの道」に次いで2例目だそうです。「サンチャゴへの
道」というのも巡礼の道で、熊野古道と姉妹提携をしていま
す。それから巡礼の道として川（熊野川）や海岸（七里御
浜）が道として位置付けられています。宗教に関連する自然
景観—那智の大滝・那智原始林・湯の峰温泉等そういったもの
も数多く含まれています。さっと流しましたが今回の世界
遺産の概略です。ご存じのように日本ではこれで12例目です。

世界遺産の考え方の一番特徴的な事は、今までは自然は自然、
文化は文化と分けて考えられてきたんですけども。世界遺産
では、これを一つに密接に拘わりあっているという考え方の
もとで生まれています。ですから、自然保護と文化の同時保
護、自然文化の融和が基本理念になっております。

登録後これからの課題

7月1日にこの地が世界遺産登録になったわけですが、もう
早速に、本宮や中辺路へは観光バスでお客様が沢山いら
っしゃってるようです。この間も両観光協会長さんにお会い
しましたが、もうとにかく悲鳴を上げてました。山道です
から、バスが何十台も来てくれたって、なかなか説明が出来
ないらしいんですね。ガイドさんはせいぜい一人で20人が精
一杯で対応しきれない。また、ガイド不足もあります。そんな
んで嬉しいような悲しいようになって雰囲気でおっしゃって
ましたけれども…。この暑い最中にでも、リュックしょって歩
く方々が本当に多くなりました。

田辺駅前観光案内センターをボランティア・ガイドの会
で運営しています。私が2・3日前に当番に入った時も、や
はりご案内するのは熊野古道ばかりなんです。田辺市内のご
案内というのは、去年もそうでしたが、殆どありません。全
部、「本宮に行くには？」とか「本宮で今日は泊まるんですが、
ちょっと歩きたい」とか、或いは「こっちへ戻って来て白浜
で泊まりますが、今から歩ける所は何処ですか？」とかその
ような事が多いです。でも問題はやはり2次アクセスの問題
で、行ったら帰って来れないんですね、なかなか。お昼頃
からスタートしたんじゃ、もう日が暮れる内には…。冬は特
にですね。口熊野、田辺や白浜には帰って来れないですね。
そういう不便さも熊野古道かなとも思っております。

でもまあ、熊野古道に面している町村の方々は、ちょっと
迷惑がってもいますけれども、何にもまして、この7月1日
以来のこの露出度っていうのは凄くて、これを観光に利用し
ないという手は無いですね。確かに本当の熊野を知
って貰おうと思ったら、パーソナルなグループで来てじっ
くりガイドさんに案内してもらいながら、古道を歩いたり名所
旧跡を訪ねたりするのが王道かも知れません。ですがバスで
パーッと来て下さる方々もお客様で、そういう方々に対応出

来るエリアっていうんですかね、全部が全部そういう方々
に対応出来なくてもいいんですが、このエリアなら、そういう
マスの観光OKよ！というエリア分け、ゾーン分けなどが今
後必要じゃないかなって思います。

昔ハワイにツアーで行った時に、やっぱり日本人ワーツと
行きますよね。そしたら帰りに2度目のハワイとか言ってパ
ンフレットを貰ったことがあるんですけど。あんな形式ど
うかな？と思うんですよね。「1回、まあとにかく世界遺産に
登録されたから行ってみよう！」とか言ってワーツと来て。
その帰りに本当の熊野のご案内がちゃんと出来れば、リピ
ーターにつながっていく。そんな戦略考えたらどうかなって
いう風感じてます。世界遺産の事については、ざっとお話を
させて頂く程度に止めておきます。

広域観光における田辺市の役割

次に用意しておりますビデオがありますので、それをご覧
頂きたいと思います。（ビデオ上映—タイトル「田辺市」。田
辺の古い町並や自然、印象的な風景が音楽と共に流れる）

実は、これは田辺の街が「いい、いい」と言う映画監督さ
んがいらっしゃいまして。で、どこがいいのか。何がいいの
か。私たちも良く分からなかったんですけども、こんな風
に映像にして見せてもらったら、暮らしの舞台としての街が
何か違ったものに見えてきたんです。

で、世界遺産登録とかされていった中で、口熊野田辺とし
ての広域観光を考えた時の役割といいますか、隣に白浜があ
って、龍神や本宮があって、その口熊野の田辺市として何が
役割なのかなというのが、今後考えていかなければなら
ない事だと思えるんですけども。このビデオを見た時に何も
しな事だと思いました。とにかくもう何も変えないという
か、手を加えずにそのまま街を、暮らしを残す事。これでいい
んじゃないかなと感じるようになったんです。色々異論もあ
るかと思いますが、ですが、今更お洒落な街や湯布院や箱根
という風な作り込んで行くような事は、もう到底私たちには
無理かなと。そしたら、このままの姿を残すことで来る人が
見方によれば「いい見方」をしてくれるのではと思います。

「真の発見への旅は、新しい風景を探し求める事ではなく、
新しい見方を持つ事にある」という昔のフランスの小説家
が言った言葉があるんですけども、「これ、いただき！」と思
いました。そういう風な活用の仕方を田辺市はすればいい
んじゃないかと。で、お泊まりは白浜だったり本宮だったり龍
神だったり、その道案内をと。そういう風な広域観光の役割
分担をそれぞれの町が担って、この一帯が面の観光を出来る
ようになればなど。その一つの役割を田辺の入り口が果た
せるような、そんな役割どころはどうかなと思っています。

私もずっと白浜でお仕事させて頂いて思うのは、年間
何百万という方々がお見えだと思えるんですけども、田辺
がある事すら多分どなたも知らないんじゃないかと思う
んです。手前に田辺があるって風なPRもしてませんし、何
も知らない分、新鮮なんじゃないかなと。そしたら白浜に泊
まりに来られるついでに、田辺にちょっと立ち寄るみたい
な、そういう風な部分を担えれば、白浜にとっても、それ
は一つの商品になるのではという風感じてます。

最後に、この「近説遠来のまちづくり」というタイトル
ですけども、「近き者喜びて、遠くの者来る」という孔子の
言葉なんですけれども。まず、住んでる私たちが暮らしをし
っかり楽しんでいる。そこを遠く人が来てくれた時にいい
と感じるみたいな、そういう事を目指して行けばいいかな
っていう風に思ってタイトルにさせて頂きました。本日はどう
も有難うございました。